

「日本3.0」

Vol.20

日本3.0時代のメディア

text by Norihiko Sasaki

文 佐々木 紀彦

今、コンテンツやメディアの世界に大きな変化が起きようとしています。その原動力は、テクノロジーです。過去20年に渡り、テクノロジーはコンテンツ業界を再定義してきました。1990年代後半からのインターネットの普及に始まり、2000年代には検索エンジンとスマートフォンが浸透。2010年代にはフェイスブック、ツイッターなどのSNSがコンテンツ消費のあり方を大きく変えました。そして2020年代に大きなインパクトをもたらすと予想されるのが、

5G(第5世代移動通信システム)です。5Gになると、現在の4Gに比べて通信速度は100倍、容量は1000倍となり、映像などの大容量データをスピーディーかつ低コストで送れるようになります。WiFi環境でなくとも、動画をサクサク見られるようになるのです。

5Gなどのテクノロジーの進化は、主に3つの構造変化をもたらします。1つ目は、ポストテキスト時代の到来です。

今までのインターネットはテキストが中心でした。しかし今後は、テキストの存在感が低下し、映像や音声の主役の座に躍り出ます。かつて、新聞、雑誌といった活字メディアから、テレビへと主役が交代していったように、インターネットの世界でも、映像へのパワーシフトが加速するのです。しかも、これまでの短尺な手軽な動画とは異なり、クオリティの高い本格的な動画が求められるようになります。2つ目の構造変化は、「コンテンツ大融合時代」の始まりです。

今後は、コンテンツの創り手にとっても、受け手にとっても、表現の選択肢が増えます。映像・活字・音声など多種多様なコンテンツを組み合わせやすくなるのです。

これまでのコンテンツ業界は、新聞、雑誌、本、ラジオ、テレビ、映画、ネットなど分野ごとにサイロ化していました。しかし今後は、各メディアの境界線が溶けます。

それによって、異業種からの参入も敷居が下がります。すでに米国では、アマゾン、フェイスブック、アップルなどによるコンテンツ投資が急増しています。日本でも、テクノロジー企業によるコンテンツ業界への参入が加速するでしょう。

3つ目の構造変化は、コンテンツのサービシ化です。コンテンツそのものというより、関係性やコミュニティに対して、月額課金などの形でお金を払うようになっていきます。こうした3つの構造変化によって、コンテンツ業界の古い仕組みがいよいよ溶け始めるでしょう。



Profile

NewsPicks CCO (チーフコンテンツオフィサー)

1979年福岡県生まれ。慶應義塾大学総合政策学部卒業、スタンフォード大学大学院で修士号取得(国際政治経済専攻)。東洋経済新報社で自動車、IT業界などを担当。2012年、「東洋経済オンライン」編集長に就任。リニューアルから4カ月で同サイトをビジネス誌系サイトNo.1に導く。2014年7月から経済ニュースサイト「NewsPicks」の編集長を務めた。著書に「米国製エリートは本当にすごいのか?」「5年後、メディアは稼げるか」がある